

学年	高校3年	教科	理 科	科目	生物演習	単位数	6
教科書名	改訂 生物（第一学習社）			副教材名	セミナー生物（第一学習社） 必修整理ノート 生物（文英堂） スクエア最新図説生物（第一学習社） 生物基礎 単元別問題集（駿台文庫）		
コース・クラス		N 進理系					

I 目標

- 1 動物の反応と行動及び植物の環境応答について観察・実験などを通して探究し、生物個体が外界の変化を感じ、それに反応する仕組みを理解させる。
- 2 生物の個体群と群集及び生態系について観察・実験などを通して探究し、それらの構造や変化の仕組みを理解させ、生態系のバランスや生物多様性の重要性について認識させる。
- 3 基礎学力到達度テストにおいて、正答率 50%以上を目指す。

II 授業のねらい

我々が生活する中で、身近な自然事物・現象のしくみを理解することで、科学的な興味を養う。また、その中で自ら問題を見だし、事象を科学的に考察することで、導き出した考えを的確に表現できるようにする。

III 授業の進め方

教室での授業を行い、必要に応じて理科室にて実験を行う。

IV 学習上の留意点

毎回、教科書・資料集・問題集・ノートを用意し、正しい姿勢で授業を受けること。
質問や発言を積極的にすること。

V 定期試験

- | | | |
|------|------|------------------------------------|
| 1 学期 | 中間試験 | 基礎学力到達度テスト向け内容 |
| 1 学期 | 期末試験 | 基礎学力到達度テスト向け内容 |
| 2 学期 | 期末試験 | 動物の反応と行動、植物の成長と環境応答、生態系のしくみと人間の関わり |

VI 評価の方法

定期試験、単元テスト、提出物（課題プリントや実験レポート等）、授業態度を総合的に判断する。

VII 授業計画

学期	月	単元・学習項目	評価方法	到達目標
一学期	4	基礎学力到達度テスト向け演習 生物基礎の復習	中間試験 期末試験 単元テスト 提出物 授業態度 その他	・基礎学力到達度テストに向けて、生物基礎および生物の復習を行い、基本事項の反復演習を行う。 ・マーク試験に対応するため、限られた時間の中ですばやく文章を読み、判断する演習を行う。
	5			
	6			
	7	生物の復習		
二学期	9	基礎学力到達度テスト向け演習	期末試験 単元テスト 提出物 授業態度 その他	・基礎学力到達度テストで正解率 50%を超えるために必要な学力を身に着ける。 ・神経系の興奮と伝達について、ニューロンの種類も含めて学習する。 ・中枢神経系について、脳のはたらきと共に学習する。 ・受容器による刺激の受容について、神経系や効果器と関連付けて理解する。 ・効果器と反応について、筋肉の滑り説を中心に学習する。 ・動物の行動について、生得的行動と習得的行動の違いを理解する。 ・生得的行動について、生物の具体的事例から行動様式を理解する。 ・習得的行動と学習について、生物の具体的事例から行動様式を理解する。 ・生態系における個体と個体群について、生態系の定義を確認する。 ・個体群の特徴について、調査方法などを含めて学習する。 ・個体群内の相互作用について、縄張りや競争の概念を理解する。 ・個体群間の相互作用について、競争や共生について理解する。 ・多様な種が共存する仕組みについて、ニッチの概念を理解する。 ・生態系の物質生産について、被食・捕食のつながりを理解する。 ・生態系におけるエネルギーの移動について、エネルギー効率の計算ができるようになる。 ・生物多様性の損失とその要因について考察する。 ・生物多様性保全の意義について理解する。
	10	第4編 生物の環境応答 第8章 動物の反応と行動 1. 刺激の受容と反応 【実験】ヒトの盲斑の実験		
	11	2. 動物の行動 第9章 植物の成長と環境応答 1. 植物と環境 2. 植物の一生と植物ホルモン		
	12	第5編 生態と環境 第10章 生態系のしくみと人間のかかわり 1. 個体群と生物群集 2. 生態系の物質生産と消費 3. 生態系と人間生活		

※ シラバスの内容（時間や事項）については、理解度やその他の都合により変更することもあります。